《第7回国際シンポジウム報告10》 2005年7月10日(日)

セッションⅣ 「無形文化財のドキュメンテーションとデジタルアーカイヴ パネルディスカッション」概要

中 村 美奈子*

午前中に行われたセッションⅢにおいてモーションキャプチャを用いた身体運動の定量的な分析の実際をふまえた上で、セッションⅣでは、そのような技術を利用してどのように無形文化財すなわち、舞踊、音楽、民俗芸能などを記録しアーカイヴ化していくことができるかについて、理系と文系の研究者各2名ずつによるディスカッションを行った。

立命館大学情報理工学部 八村広三郎教授「デジタル技術による伝統芸能の記録と解析」では、立命館大学COEプログラム「京都アート・エンタテインメント創成研究」の「舞踊のデジタルアーカイヴプロジェクト」のプロジェクトリーダーという立場から、COEプロジェクトの研究成果についてご発表いただいた(筆者もこのプロジェクトの客員研究員を務めている)。

株式会社わらび座デジタルアートファクトリー 海賀孝明研究員「劇団わらび座の日本民俗芸能のデジタルアーカイヴ」では、午前中のセッションと関連して、モーションキャプチャデータを用いて作成された鬼剣舞のコンピュータグラフィックスを紹介していただいた。

神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 廣田律子教授「モーションキャプチャーを使った日中芸能比較研究の試み」では、神奈川大学21世紀COEプログラム「人類文化研究の為の非文字資料の体系化」の研究活動の一環として行われている、モーションキャプチャによる芸能の収録についてご発表いただいた。

韓国国立文化財研究所 朴原模研究員「韓国における無形文化財記録作成とデジタルアーカイヴ」では、韓国の民俗芸能などの無形文化財の保存に関する韓国の文化行政の現状についてご発表いただいた。

4人の方にそれぞれ25分ずつ研究成果を発表していただき、発表の後にはそれぞれ5分程度の質疑応答の時間を設けた。また、最後に30分程度のディスカッションを行った。

*お茶の水女子大学文教育学部助教授